

17自己自身とのジョイン(35)

自己自身とのジョイン(35)

テーブル名のエイリアスの機能を用いると一つのテーブルをあたかも二つのテーブルがあるかのように扱う興味深い検索が可能となる。次の例は、テーブル「業者」から、同じ電話 番号を持つ業者のペアを選び出そうとするものである。

まずfrom句に注目して欲しい。二つのテーブルが指定されているが、実際には「業者」という一つのテーブルに、firstとsecondという二つの別名が与えられている。

例 35: 同じ電話番号を持つ業者を検索（自己とのジョイン）

```
select first.業者名,second.業者名,second.電話番号
from 業者 as first , 業者 as second
where first.電話番号 = second.電話番号
and first.業者番号 < second.業者番号
```

first.業者名	second.業者名	電話番号
筑波商事株式会社	岡田販売	012-3323-4646

この検索では、二つの条件が置かれているのだが、最初の条件は、普通のジョインで よく見かけるものである。

```
where first.電話番号 = second.電話番号
```

それでは、次の条件は、どんな働きをしているのだろうか？

```
and first.業者番号 < second.業者番号
```

この条件部分の働きは、この部分がなければどのような出力が得られるかを考えて 見れば分かる。そうした時、この例では全く同じテーブルのジョインであるから、例えば、「筑波商事株式会社」と「岡田販売」が同じ電話番号を持つという 出力に対応して、この前後を取り替えた、「岡田販売」と「筑波商事株式会社」が同じ電話 番号を持つという出力が現れることになる。また、これらの他にも「土浦電子」と「土浦電子」が同じ電話番号を持つとか、「下妻科学」と「下妻科学」が同じ電話番号を持つといった出力も現れることになる。もちろん、こうした出力は冗長である。第二番目の条件は、まさに、こうした冗長な出力の抑制をしているのである。自己自身とのジョインの時には、こうしたやり方を知っておくと便利である。